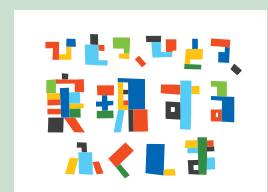




林業福島

No. **706**

題字 公益社団法人福島県森林・林業・緑化協会
会長 小檜山善継



6

2023

監 修 ■ 福島県農林水産部
表紙の写真 ■ 楽しい緑の森



森林の若返りと林業の継続

関東森林管理局会津森林管理署
署長 中島 勇 雄

会津地域における国有林野の管理経営に対しましては、多方面にわたりご支援、ご理解を賜り、本紙面をお借りして厚く御礼申し上げます。

会津森林管理署は、福島県の森林面積の約一割に相当する会津地域の国有林約九万五千鈔を管理しています。管内の森林は、ブナ、ミズナラ、アカマツ等を主体とする天然林が約七割を占めており、スギ、カラマツ等の人工林は約二割となっています。人工林は、利用期に達している十齢級以上の林分が約七割となっていて、森林資源が充実している状況にあります。全国的にも利用期に達している人工林は非常に多くなっている現状にあり、資源の有効活用に向けて計画的、継続的な森林の整備が求められています。

こうした人工林を持続的に管理経営するため、林業のサイクルである森林を「伐つて、使つて、植えて、育てる」という取組を確実に実施していかねばなりません。充実した森林資源を計画性をもって伐採することにより、国産材の安定供給を図ることは勿論のこと、伐採跡地の植林を確実にを行いながら造林事業を確保し、「林業」を継続させることと合わせ、地球温暖化防止の観点から、二酸化炭素の森林吸収源対策を推進するための「森林の若返り」を積極的に推進していかねばならないと考えています。

林業は、木を伐らなければ始まりませんが、林業に従事する人は、高齢化が顕著で減るばかりです。十年、二十年先には、山で働く人がいないかもしれません。少子高齢化等により、あらゆる産業で人手不足が叫ばれ、新たな人材の確保は極めて難しい状況となっています。「山で働きたい」という人は少ないでしょうが、「山で働くのもいいかな」という人は、案外多いかもしれません。林業には賃金、機械化、安全性等多くの課題がありますが、森林環境を守るため、職業選択の候補とするためにも「林業」を継続させねばなりません。

当森林管理署としても、林業従事者の受け皿である事業体の育成・確保に向けて、事業の安定的・継続的発注や労働環境の改善に向けた効率的な作業方法の確立などを通じて、「林業」が継続できるよう様々な取組を行っていくとともに、再生可能な資源として有効に利用しながら、森林吸収源対策の維持・向上に向けて、よりよい形で次世代に引き継げるよう、「森林の若返り」を図る取組を進めていきたいと考えています。

《も く じ》

とびら

森林の若返りと林業の継続

関東森林管理局会津森林管理署

署長 中島 勇 雄…………… 1

福島県の山地災害について…………… 2

林業研究センターだより…………… 3～4

熱中症を防ぎましょう…………… 5

女性に向けたイベント「木のスプーンとバターナイフづくり～かわらまち木工舎さんに教わるワークショップ～」を開催しました…………… 6

林業アカデミーふくしま研修日誌①…………… 7

普及指導員通信…………… 8

森林管理署メモ…………… 9

林災防だより…………… 10

木の文化を育む⑤…………… 11

木材市況・ふくしま東西南北…………… 12

はなしのひろば・お知らせコーナー…………… 13

福島県の山地災害について

福島県森林保全課

○山地災害について

近年、地球温暖化や世界的な気候変動によりゲリラ豪雨と称される局所的な集中豪雨が日本全国で多発しています。近年では、令和四年八月三日～四日の豪雨により、会津地方を中心に林地被害が発生しました。



令和4年8月3日～4日の豪雨による西会津町の林地被害状況

国、県、市町村では毎年五月二〇日から六月三〇日までの期間を「山地災害防止キャンペーン」月間とし、ポスターの提示やホームページ

への掲載により山地災害に対する注意喚起を行っています。

また、これまでに県は、山地防災ヘルパーの新規認定や資質の向上を目的とした講習会などを行ってきました。(ここ数年はコロナ禍のため書面による情報提供を実施しています。)

○福島県の地形・地質・自然条件

Q. 山地災害はなぜ発生するのでしょうか？

A. それは地形・自然条件を見ると山地災害が起こりやすい特性を持っているからです。

会津地方は奥羽山脈や越後山脈の広大な山地帯で急峻な山々が連なり、活火山地域特有の地質となっています。中通りから浜通りにかけては阿武隈高地があり、花崗岩マサ土地帯で表層崩壊が起こりやすいなどの特徴があります。

自然条件としては福島県(会津若松、福島、小名浜の各観測所過去十年)の年間平均降水量は約一、三〇〇mm(日本の平均一、七〇〇mm)と全国平均を下回ります



南相馬市原町区の令和元年東日本台風被害復旧状況(上:復旧前 下:復旧後)

が、梅雨前線や台風などによる集中豪雨に加え、環太平洋地震地帯の中に位置するため地震や火山活動が活発であり、山崩れや土石流、地すべり、なだれなどの山地災害の危険を常に抱えているといえます。

今後、梅雨期や台風の時等には局地的な集中豪雨が起り、各地に大きな災害をもたらす可能性があることから、土砂災害から身を守るために日頃から備えておくことが重要です。

○危険箇所を知ろう！

災害に備えるためお住まいの地域で山地災害のおそれのある地区がどこにあるか知っておく必要があります。

福島県では山腹崩壊や崩壊した土砂の流出などが発生又は発生する危

険があり、その被害が人家・公共施設等に直接影響する恐れのある地区を調査し、「山地災害危険地区」としてお知らせしています。身近に危険な箇所がないかどうか、あらかじめ確認しておきましょう。

(福島県森林計画課ホームページ「ふくしま森林情報発信システム」「ふくしま森まっぶ」参照) <https://www2.wagmap.jp/fukushima-shirrin/portal>



林業研究センターだより

令和4年度の 主な研究成果について



原木シイタケ栽培の様子

福島県林業研究センター

林業研究センターでは、県内の林業推進のための研究（通常課題）を行っておりますが、東日本大震災による東京電力福島第一原子力発電所の事故以降、森林や林産物の汚染の課題に対応する研究（放射線関連課題）も行っていきます。これらの研究成果については、通常課題の成果となる「普及に移しうる成果」と放射線関連課題の成果となる「放射線関連支援技術情報」として公表していきます。令和4年度は、「普及に移しうる成果」三課題、「放射線関連支援技術情報」五課題の成果をとりまとめました。これらの成果の一部についてご紹介します。

なお、各成果については、林業研究センターのホームページにも掲載しておりますのでご参照ください。

令和4年度 普及に移しうる成果

(1) 海岸防災林造成地に認められる
枯損・生育不良の原因について

東日本大震災で被災した海岸防災林は、主にマツ類の植栽により復旧が進められてきましたが、一部では植栽木枯損や生育不良が確認されています（図-1）。その要因を調査したところ、土壌の通気性、排水性の悪さが原因であることがわかりました。今年度は、排水性の改善方法の検討も進めています。



図-1 海岸防災林に植栽したクロマツ生育状況の違い（左右とも4年生）

(2) アケビスプラウトの遮光栽培
アケビの新芽は、一部地域で野生採取のものが食用とされていますが、苦みが強いことから広く普及していません。そこで、アケビスプラウト（スプラウト…実生由来の新芽）の栽培方法として、新たに遮光栽培を試みたところ（図-2）、野生種に比べ可食部長が大きく、ほろ苦く歯切れの良い食感を有するスプラウトを生産できることが明らかになりました。今後、新たな山菜品目として期待されます。

令和4年度 放射線関連支援技術情報

(1) 萌芽更新後十年が経過したコナラ株における枝葉の放射性セシウム濃度からの幹濃度推定について
萌芽更新木をきこの原木として利



図-3 客土の様子

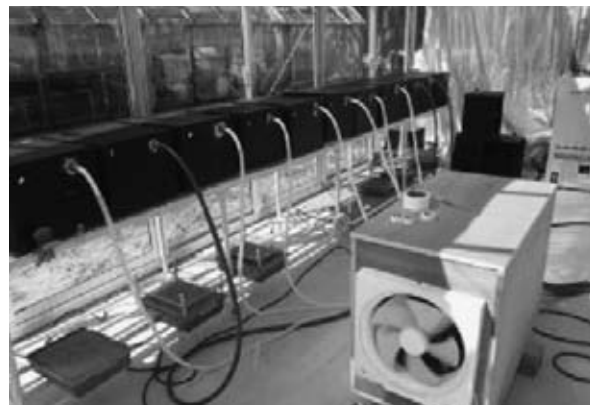


図-2 遮光栽培装置

用する際に、伐倒せずに枝葉から幹の¹³⁷Cs濃度を事前に推定することができれば、原木の安全利用と伐倒作業の簡略化を図ることが出来ます。そこで、萌芽更新後十年経過したコナラ株を調査したところ、葉及び太さの範囲を区分した枝の¹³⁷Cs濃度を測定することで、幹の濃度を効率的に推定できることが分かりました。

(2) 客土による露地栽培原木ナメコ子実体の¹³⁷Cs汚染低減効果
原木ナメコは、ほだ木を地面に伏せこむため、土壌からの¹³⁷Cs汚染が懸念されており、過去の研究で、客土することに よって汚染低減が図れる可能性が示唆されていました。そこで、より土壌汚染の強い場所、客土による¹³⁷Cs汚染低減効果を検証した結果、露地栽培原木ナメコの¹³⁷Cs汚染を大幅に低減できることが分かりました(図-3)。

(3) 原木シイタケ子実体¹³⁷Cs濃度に及ぼす収量の影響
原木からシイタケ子実体に移行する¹³⁷Csの濃度は原木辺材部の¹³⁷Cs濃度に従って上昇することが知られていますが、この関

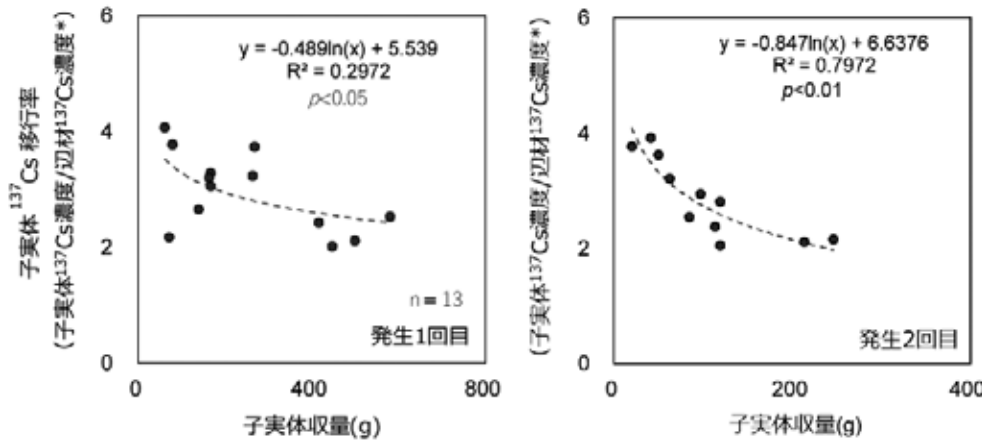


図-4 子実体への¹³⁷Cs移行率と子実体収量の関係
※¹³⁷Cs濃度は、子実体は含水率90%換算値、辺材は含水率12%換算値とした。

係からのみでは説明できないばらつきもありました。そこで、子実体への¹³⁷Cs移行しやすさ(子実体¹³⁷Cs移行率)に子実体収量が及ぼす影響を調査したところ、子実体収量が少ないほど¹³⁷Csが移行しやすくなる関係性があることが分かりました。

トピックス

第一回全国林業試験研究機関 研究支援功労賞を受賞!

平成四年から三〇年間にわたり、福島県林業研究センター(旧福島県林業試験場採用)に勤務し、きのこの栽培、木材加工、種苗育成に関する研究の補助を担ってきた影山栄一主任農場管理員が、第一回全国林業試験研究機関研究支援功労賞を受賞しました。

※研究支援功労者とは…全国林業試験研究機関協議会が、林業・林産に関する試験研究に多大な貢献をした研究支援職員を表彰するもの

〈影山主任農場管理員からのコメント〉
平成四年、農場管理員として県に採用され配属された先が林業試験場(現・林業研究センター)でした。林業の経験がない私は全くの素人で0からのスタートでした。何も林業の知識の無い私を、研究員の方々は親切丁寧にご指導くださり、育てていただきました。研究という仕事は一つ一つの積み重ね根気のある地道な作業の

繰り返し、まして失敗の許されない仕事だと思えます。その仕事に携われた事で少しでもお役に立てたのであれば幸いです。研究員の方々にはこれからも福島県の復興、発展のために良い研究成果を上げていただきたいと思います。その一員としてこれからもお役にたてれば幸いです。

影山氏の丁寧で正確な仕事ぶりは、試験研究の推進に大きく貢献しており、当所では、今回の受賞を励みに、今後とも試験研究課題の成果を得られるよう邁進してまいります。



熱中症を防ぎましょう

福島労働局労働基準部健康安全課

福島県内の令和4年の熱中症による労働災害については、死亡者数は0人でしたが、休業4日以上之死傷者は14人で、令和3年と比べ5人増加しました。これから暑くなる時期ですので、職場での熱中症予防に取り組ましましょう。

令和4年福島県内の林業における熱中症災害事例

	発生月	被災者	発生状況
1	9月	男 30歳代	山林の現場において、伐採作業中に気分が悪くなり、歩行も困難となった。他の従業員が安全な場所に移動させた後、救急搬送された。

STOP! 熱中症クールワークキャンペーン

実施期間 令和5年5月1日～9月30日（準備期間4月、重点取組期間7月）
期間ごとの実施事項に重点的に取り組ましましょう。

キャンペーン期間（5月1日～9月30日）

【STEP 1】

JIS規格に適合した暑さ指数計で暑さ指数を随時把握しましょう。
地域を代表する一般的な暑さ指数（環境省）を参考にすることも有効です。



【STEP 2】

測定した暑さ指数に応じて以下の対策を徹底しましょう。

- (1) 暑さ指数の低減 事前に検討した設備対策を実施
- (2) 休憩場所の整備 事前に検討した休憩場所を設置
- (3) 服装 事前に検討した服装を着用
- (4) 作業時間の短縮 作業計画に基づき、暑さ指数に応じた休憩、作業中止
- (5) 暑熱順化への対応 7日以上かけて熱へのばく露時間を次第に延長
※新規入職者や休み明け労働者に注意
- (6) 水分・塩分の摂取 水分と塩分を定期的に摂取
- (7) プレクーリング 作業開始前や休憩時間中に深部体温を低減
- (8) 健康診断結果に基づく対応
次の疾病を持った方には医師等の意見を踏まえ配慮
①糖尿病 ②高血圧症 ③心疾患 ④腎不全 ⑤精神・神経関係の疾患
⑥広範囲の皮膚疾患 ⑦感冒 ⑧下痢
- (9) 日常の管理 当日の朝食の未摂取、睡眠不足、前日の多量の飲酒が熱中症の発症に影響を与えることを指導し、作業開始前に確認
- (10) 作業中の労働者の健康状態の確認
巡視を頻繁に行い声をかける、労働者にお互いの健康状態を留意するよう指導
- (11) 異常時の措置 少しでも本人や周りが異常を感じたら、必ず一旦作業を離れ、病院に搬送する（症状に応じて救急隊を要請）などを措置
※全身を濡らして送風することなどにより体温を低減
※一人きりにしない



重点取組期間（7月）には、以下のことを実施しましょう。

- (1) 暑さ指数の低減効果を再確認し、必要に応じ対策を追加
- (2) 暑さ指数に応じた作業の中断等を徹底
- (3) 水分、塩分を積極的に取らせ、その確認を徹底
- (4) 作業開始前の健康状態の確認を徹底、巡視頻度を増加
- (5) 熱中症のリスクが高まっていることを含め教育を実施
- (6) 体調不良の者に異常を認めるときは、躊躇することなく救急隊を要請

女性に向けたイベント「木のスプーンとバターナイフづくり」かわらまち木工舎さんに教わるワークショップ」を開催しました

令和五年三月二十五日(土)に、女性に向けたイベント「木のスプーンとバターナイフづくり」かわらまち木工舎さんに教わるワークショップを開催しました。これは、当協会が実施する森林・林業担い手育成事業の一つとして、森林や林業に興味関心のある女性に向けてイベント等を開催するもので、年二回ほどのペースで行っています。

今回のワークショップは、須賀川市在住の木工作家「かわらまち木工舎」こと中山由紀子さんを講師に迎えて、須賀川市民交流センターのルーム3-2を会場に行いました。参加者は、案内チラシや当協会のウェブサイトのほか、中山さんの活動や作品を紹介するSNSなどからイベントの情報を得て応募いただき、親子での応募や、初めて男性からの応募もあり、計二一名での開催となりました。

木のスプーンづくりは、山桜を素材に、講師の中山さんがあらかじめ切り出し・成型・浸水したスプーン素地を用いて、彫刻刀でくぼみを彫り出す作業から行いました。参加者は、初めは彫刻刀の扱いに戸惑っている様子でしたが、だんだんとコツを掴んで彫りすすめ、紙やすりを用いて削り磨く作業を行い、それぞれが思い描くスプーンを作りました。焼きペンで名入れをして、オイルを塗って一晩なじませれば完成です。

今回は、さらに木のバターナイフづくりにも挑戦しました。栗の木を素材に、中山さんに準備いただいたバターナイフ素地を用いて、紙やすりによる磨き・名入れ・オイル塗布の作業を行いました。

一一〇分という短い時間でのワークショップにも関わらず、中山さんの丁寧な事前準備もあり、参加されたほぼ全員がスプーンとバターナイフの両方を完成させることができ、「楽しかった」「また(スプーンづくりの)イベントがあればぜひ参加したい」等の感想をいただきました。作業

を通じて木の硬さに驚かれる方や、「昔の人は(こうして)一つずつ手作りして道具を調達していたと思う」と感心してしまう、「オイルを塗った瞬間に浮かび上がる鮮やかな木目に感動した」などの感想も聞かれ、改めて素材としての木に触れる良い機会となりました。手に持った感触も優しく柔らかく、使うたびに木の風合いを楽しむことができます。

中山さんのワークショップは非常に人気が高く、林業事業体の女性職員や市町村等の女性職員も多く参加しています。森林や林業に興味関心を持つ方々が、世代や業種を問わず集まることのできる交流の場や、情報交換の場としての活用も期待できることから、可能であれば今後も定期的に開催し、楽しみながら木と触れ合い、人と人が繋がる場として提供していきたいと考えております。

生活に身近なもののづくりを通して、木の良さや作る楽しさを体験できる



講師の中山由紀子さん



初めに、作業手順や道具の安全な使い方を教わります



ワークショップの様子 明るい会場が心地よい



彫刻刀でくぼみを彫り出し、好みの薄さに仕上げます



中山さんに教わりながら作業を進めます



完成したスプーン!世界に一つだけの作品です

林業アカデミーふくしま研修日誌①

福島県林業研究センター

〇はじめに

林業アカデミーふくしま就業前長期研修第二期生十六名が令和五年四月に入講しました。

「林業アカデミーふくしま」は、新たに林業分野に就業する方を対象とする「就業前長期研修」及び市町村職員や林業従事者を対象とする「短期研修」を両輪に、実践力を身に育成します。

本シリーズでは、研修の内容や研修生からの感想をご紹介します。

〇四月の研修内容 (就業前長期研修)

四月第一週目は、林業に携わるうえで基本となる知識の習得と、実際の林業の現場視察を行いました。

同僚や上司と仕事を円滑に進めるためのコミュニケーションスキルや、森林・林業の基礎知識、林業労働災害の現状やその防止について、そして鉋、鋸などの手道具の扱い方

を学びました。また、石川町と白河市で伐採と地拵えの現場を視察しました。

第二週目は、実習が増え始めました。敷地内でのきのこ植菌体験のほか、「伐木等業務に係る特別教育」及び「刈払機取扱作業者に対する安全衛生教育」を受講し、資格を取得しました。

四月最後の一週間は、林業の事故事例について学び、救急法基礎講習を受講しました。また、気象害や病虫害被害について知識を深め、妙見山実習フィールドでシカ害防除現場を視察しました。最終日には多くの事業体にご参加いただき、就職ガイダンスを行いました。研修生は就職を意識しながら意欲を高めることができました。今後の研修では一つ一つ知識を深めるとともに、実習を通して技能の定着を目指します。

〇研修生の感想 大槻 学さん

『林業を一生涯の生業とする』という覚悟で挑んで早くも一か月、林

業アカデミーふくしまでの学科、実習を含む全ての科目は、私にとっても新鮮で奥深く、毎日ワクワクしながら通っています。

カリキュラムが綿密に組まれ、講師の方々からは最新の情報を学ぶ事ができ興味深く受講しています。日本の林業の課題が森林飽和にあり、山々に住む動物達に影響を及ぼしている事を学びました。その課題に対し、正しい知識を身につけ自分自身で判断する事が重要だと感じました。きのこ生産では椎茸栽培の歴史や原木椎茸の栽培方法を学び、椎茸菌の駒打ちや、ホダ場の選び方、仮伏せ等を実践しました。

そして、いよいよ手道具や刈り払い機、チェーンソー実習です。まずは正しい扱い方やメンテナンスを学び実習に臨みました。しかし、チェーンソーの実習では、私のソーチェーンが外れヒヤリとしました。チェーンキヤッチャーのおかげで怪我をする事も無く、安全装置の重要性を実感しました。その為始業前のベルトやチェーンの緩み等の点検には一層気を配り、怪我の無い様に安全第一を心掛けた

と思います。

五月からは資格試験等もあり、集中力が必要な日が続きます。一年という短い期間なので、恵まれた環境を十分に活かし、仲間と共に日々の研修に励みたいと思います。



「受け口」を作る研修生



伐木現場の視察をする研修生たち

小学生を対象とした森林環境学習及び 高校生林業見学会による普及啓発について

福島県会津農林事務所

林業普及指導員 澁谷 恵子

○背景と目的

会津農林事務所管内では他管内と同様に、森林に対する経営意欲の減退や関心の薄れにより、森林の荒廃などによる公益的機能の低下や、木材生産や森林整備に必要な林業の担い手の不足が懸念されています。

そのため、森林・林業の正しい知識を学んでもらうことで、森林に対する興味・関心や森林を守り育てる意識の醸成を図り、将来的な林業分野への就業促進を図ることを目的に、管内の小学生を対象とした森林環境学習及び農林高校生等を対象とした高校生林業見学会を実施しました。

○取組内容

	日付	場所	対象者	内容
森林環境学習	令和4年7月1日	会津若松市立永和小学校	4・5年生 (27名)	「森林の働きと林業」 「きのこの栽培方法」
	令和4年8月30日 令和4年9月6日	喜多方市立第一小学校	4～6年生 (17名)	「樹木調べ・樹名板作成 (桐の端材利用)」
	令和4年12月1日	会津若松市立川南小学校	3年生 (19名)	「森林の働きと林業」 「樹木の疑問を解き明かそう！」
高校生林業見学会	令和4年11月8日	耶麻農業高等学校	1年生 (12名)	「出ヶ原和紙づくり」 「山ぶどうヅル細工」
	令和4年11月22日	会津農林高等学校	2年生 (13名)	「森林整備現場見学」、「製材所見学」 「きのこ生産施設見学」

○小学校を対象とした森林環境学習

小学校（3校）を対象に、森林に対する興味・関心を高めてもらうため、学校の要望に応じた森林環境教室や体験活動等を実施しました。

その結果、子ども達の森林の働きと林業に関する理解が進み、身近な自然に興味を持っていただくことができました。樹種の同定と樹名板製作に取り組んだ子どもたちは、校内の樹木に興味を持ち、より意欲的に緑の少年団活動に取り組む姿勢が見られました。



樹名板の取付け

○高校生林業見学会

農林高校（2校）を対象に、地域資源を活用した伝統産業の体験や高性能林業機械を使った森林整備等について現地見学会を開催しました。

引率された先生方からは「育林から収穫までの仕事の流れを実際に現場で見学できて分かりやすかった」「迫力ある高性能林業機械は、とても印象的で次回も継続して欲しい」等の感想が寄せられ、反響がありました。

また、見学先の林業事業体に卒業生が在籍していたため、学校側では「先輩のはなしを聞く会」の外部講師を打診しているとのことで、新たな広がりを見せています。



高性能林業機械の見学

○今後の展開

森林環境学習については、今年度も引き続き、小学校の実施要望を積極的に受け入れ、森林に触れる・木に触れるといった実体験の重要性を鑑み、教室内だけではない、校内にある樹木や身近な里山を利用した学習を実施します。また、会津を代表する桐や漆等について学ぶ機会を創出するため、地域との連携を強化していきます。

さらに、高校生林業見学会については、従来の現場見学に加え、生徒達への事前アンケート等により、関心が高い話題を提供するなど、より林業の魅力が伝わる見学会へ発展させたいと考えております。

森林管理署メロ

松川浦地区における 海岸防災林の復旧 状況について



磐城森林管理署

相馬市松川浦地区にある大洲^{おおす}国有林は、松川浦と太平洋を隔てる砂州上に位置し、クロマツを主体とする海岸林が広がっていました。しかし、平成二十三年三月十一日の東日本大震災時に発生した津波により、立木のほとんどが流出するという壊滅的被害を受けました。

1 護岸工

波浪からの林地保護を目的に、松川浦に面する護岸工の復旧を計画し、平成二十四年度から実施、平成二十七年までに完成しました（施工延長…計一、五四七メートル）。

護岸工の計画、施工の段階で、地震に伴う地盤沈下により、松川浦沿岸部に塩性湿地が出現し、そこにハママツナ等の希少な動植物の生育が確認されました。そのため、磐城森林管理署と福島県は、協同して保全に取り組むこととし、希少な動植物の生育が確認されました。

種検討会議において検討のうえ、希少動植物の保全区域を設定しました。

2 盛土工

防災林復旧の計画では、元地盤の上に生育基盤盛土を施工し、植栽木の根系の成長スペースを確保することとしました。盛土の高さは、地下水位十二・四メートルとしました。

盛土工は平成二十四年度から実施し、平成二八年度に完成しました（面積…約五四畝、数量…約一二八万立方メートル）。

盛土面の低い位置に、降雨後に滞水が生じるようになり、それが原因で植栽地の一部に枯死木が発生しました。その対策として、表面水の地下への浸透を促す縦暗渠による浸透工を設置しました。これにより、滞水を解消し、枯死を抑制することができました。

3 植栽工、丸太防風柵工・静砂垣工

植栽木は主にマツクイムシ抵抗性クロマツとし、植栽本数は一〇、〇〇〇本／畝（太平洋側）ないし五、〇〇〇本／畝（内陸側）としました。また、強風から植栽木を保護するために丸太防風柵・静砂垣の設置を計画しました。

植栽工は平成二六年度から実施し、令和三年度に完成しました（面積…約四八畝、本数…約三万八千本、丸太防風柵工…約一・〇万メートル、静砂垣工…約六・八万メートル）。

4 今後の展望

令和三年度をもって、震災後約十年をかけた復旧工事は完了しました。今後、松川浦地区の国有林が、海岸防

災林として、津波被害軽減機能や、潮害防備機能・飛砂防止機能等を十分に発揮するには、適切な時期に適切な方法で本数調整等の保育管理を行っていく必要があります。また、植栽木の成長に伴い不要となる静砂垣等の撤去・処理方法や、侵入により植栽木への悪影響が懸念されるクズ（つる植物）やハリエンジュ（ニセアカシア）への対応等も考慮して保育管理を行っていく必要があります。そのため、令和四年度に、植栽木の保育管理計画等の検討を行いました。令和五年度は、本数調整や静砂垣撤去工に着手する予定です。

磐城森林管理署では、これからも、健全な海岸防災林を目指し、事業を進めて参ります。



護岸工



希少動植物の保全区域



盛土工



浸透工



植栽工、丸太防風柵工・静砂垣工



復旧工事完了後

「林一災一防一だ一より一」

林業労働災害防止協会 福島県支部

令和五年度事業計画について

日頃より、当支部の運営に御支援・御協力を頂き感謝申し上げます。

当支部の令和五年度事業計画についてご説明いたしますので、各職場における更なる安全意識の高揚に繋げて頂ければと考えています。

○基本方針

第十三次労働災害防止計画及び林業労働災害防止計画（五カ年計画）に基づき県内の年間死傷者数を見ると、林業においては、二〇一七年（平成二九年）の二五名に対し平成三〇年（令和四年平均）で三二名となり、全国的に減少傾向の中、本県では、二三割増加しています。また、木材木製品製造業においては、二〇一七年（平成二九年）の三〇名に対し平成三〇年（令和四年平均）で二九名となり微減していますが、林業及び木材木製品製造業ともに死傷災害五割以上減少の目標を達成していません。

このことから、新たな五カ年計画（死傷災害五割以上の減少）を達成すべく、より確実な対策を県・林業関係団体と連携しながら取り組みます。

特に、厚生労働省が伐木等作業における安全対策として定めた「労働安全衛生規則の一部改正」及び「チェーンソーによる伐木等作業の安全に関するガイドライン」の内容を会員、関係林業事業体に対し周知を図るとともに、次の事業を積極的に取り組んでまいります。

○実施事項（主たるもの）

具体的に取り組む事項は次のとおりです。皆様の御協力を得ながら進めていく計画ですのでよろしくお願ひします。

- 1 安全衛生管理活動事業
先山ゼロ災推進巡回指導、安全衛生指導員等の研修会開催など

- 2 労働災害防止特別活動推進事業
振動障害特殊健康診断受診の促進など

- 3 安全衛生教育支援事業
木材加工用機械・伐木等特別教育・機械集材装置・車両系木材伐出機械・刈払機・造林作業に係る安全教育の実施、林業アカデミーふくしまに対する安全指導や実技指導等に関する協力など
※実施日時等はホームページ（<http://www.fmokuren.jp/>）を参照してください。

- 4 安全衛生対策支援事業

- 講師の養成、安全衛生大会、チェーンソー選手権公式審判員の養成、地域協議会への参加など

- 5 林業労働災害防止に関連する受託業務
緑の雇用現場技能者育成、緑の雇用林業労働安全推進対策、伐採安全アドバイザー事業受託など

- 6 会員への補助事業等
安全装備（ヘルメット、保護衣、安全ブーツ、防振手袋）購入補助、振動障害二次健診の受診補助、木材加工用機械技能講習支援など



令和4年度先山ゼロ災推進巡回指導



令和5年度特別教育の様子（林業アカデミーふくしま研修生）

木の文化を育む⑤

檜の玩具が未来をつくる〜趣味を活かした木工活動〜

(木楽工房)

郡山女子大学 生活科学科 建築デザイン専攻 准教授 阿部 恵利子

○はじめに

古来より建物や家具に使用する木材として重宝されてきた檜は、見た目の風合いの良さや温かみのある優しい感触が人々に好まれ、慣れ親しまれてきました。優れた調湿効果のほか、香りにはストレスを和らげる癒し効果もあります。こうした檜を使用した玩具づくりをとおして、人と森との関わりを身近に感じ、さまざまな学びを得る機会が、子どもたちのより良い未来を育みます。

○福島県産檜の玩具

趣味である木工の技能を活かして、孫のためにゆりかごを製作したことを契機に、今日では数多くの木製玩具を扱うようになった、木楽工房の宇佐見勝利さん(郡山)は、福島県産の檜を使用し、カスターネットやミニカー、パズル等、子どもの木製玩具やインテリア製品のほか、フィッシュカービング、木彫りのアート作品など、さまざまな木製品を製作しています。手作りで一つひとつ丁寧につくられた木製品は、木肌が美しく滑らかな感触で、木の優

しい温もりが伝わってきます。趣味で作りはじめた木製品は、今日では県内の道の駅や物産館等でも販売されるようになり、子どもから大人まで数多くの人々が手にしています。

○モノづくりの楽しさを伝える

木楽工房では、カスターネット・ミニカー・竹とんぼなど、様々なワークショップを企画しています。自分が子どもの頃に経験したモノづくりの思い出を振り返り、「子どもたちにはモノづくりの経験をを通して、さまざまな学びを得てほしい」と宇佐見さん。遊び道具を自ら作って遊んだ経験が生きる力となり、暮らしの中で役立つことを願っています。

○手づくりキット

宇佐見さんは一人でも多くの人に木製玩具を楽しんでもらいたいという思いから、木楽工房の人気商品「くまさんカスターネット」を自宅で組み立てることができる、手づ

くりキットを開発しました。小さなお子様やお年寄りでも簡単に組み立てられるため、福祉施設のレクリエーションやイベントでの活用が期待できる商品となっています。

○社会福祉への取組

木楽工房で販売している商品の一部は、NPO法人Miliban(田村郡)の就労移行支援事業と連携し、作業訓練の一環となっています。宇佐見さんは、職業指導員・木工マイスターとして子どもたちに木材加工技術を伝え、子どもたちは学んだ技術を活かして、木製品を丁寧に作ります。作った木製品は三春町役場で販売し、販売経験をを通して接客のマナーや人との繋がりの大切さを学びます。「木製品の製作が子どもたち一人ひとりの自信に繋がると、子どもたちの将来につながると思う」と宇佐見さん。



人気商品の「くまさんカスターネット」(上)と手づくりキット(下)



宇佐見さんの趣味の一つ「フィッシュカービング」

○地域の町おこし

木楽工房では、地域の町おこしのために、三春の滝桜に因んで、桜をかたどった「桜のコースター」や桜の花をイメージした特別パッケージの「燻製卵」(伯方の塩と利尻昆布を使用)を商品化しています。宇佐見さんは今日も趣味を活かした木工活動を通して地域と繋がり、子どもたちの成長を願いながら、木製品の製作、指導に励んでいます。

○まとめ

子どもから大人まで手に取りたくなる檜の玩具には、子どもたちの健やかな成長と地域の発展を願う気持ちが込められています。宇佐見さんは今後、地域の人々が木を使ったモノづくりを自由に楽しめる機会をつくり、モノづくりを通して持続可能な地域社会に貢献してゆきたいと考えています。

県森連いわき共販における木材市況（5月分）

令和5年6月1日
福島県森林組合連合会

(単位：㎡当り千円)

素 材						素 材						
樹 種	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	摘 要	樹 種	長 級 (m)	径 級 (cm)	高 値	低 値	摘 要	
スギ	4.00	9下	12.0	11.5		カラマツ	4.00	12下				
		10~13	14.0	13.5				13~14				
		24上	10.5	9.5				16上	16.8	16.0		
	3.65	16上				クリ	4.00	16上				
		24上	10.3	9.6			3.00	16上				
	3.00	9下	12.0	11.0		モミ	4.00	20上				
		10~13	11.5	11.3								
		14~16	9.5	9.0								
		18~20	10.4	10.2								
	6.00	22上	10.2	9.3		市況概要と市況展望						6月の共販日
16~20												
2.00	16上	7.5	5.5		入荷量は多いです。販売量は2,063㎡（前年同月比63%）でした。 市況は、先月同様、市毎に値下がりしています。荷動きも悪く元落ちが増えています。 特にスギ3.00m、3.65m、4.00mの中目材、30cm上材は元落ちが多いです。 先行き、この状況が長期化する恐れがあります。また、雨期に向けて虫害が予想されますので十分に考慮の上、出荷をお願い致します。						7日(木)	
ヒノキ	4.00	10~13				行事とお知らせ						19日(月)
		14~16	12.0	11.5								27日(火)
		18~20				県森連の木材市況は、県森連のホームページでもご覧いただけます。 福島県森林組合連合会 木材市況 <input type="button" value="検索"/>						
		22上	13.5	12.5								
3.00	16~20	12.5	12.0									
アカマツ	4.80	18~22										
	4.00	18~22	10.0	9.0								
		24上	10.0	9.0								
	3.00	16~22	8.0	7.0								
		24上	8.0	7.0								

県としても、持続可能な森林の循環利用を進めるため、林業事業者の方々へ伐採と植林を連続して行う一貫作業システムの導入やコンテナ苗を使うことで作業時の労務費等を抑える取組に対し支援をしています。

南会津地方にはカラマツ林が比較的多く分布していることから、スギなどの人工林を皆伐した跡地にはカラマツ苗の植林を推奨しています。南会津町の町有林や林道沿いの私有林に植林する取組が始まっています。

南会津町長野地区には、カラマツのコンテナ苗を大量に生産する「南会津樹木育苗センター」があります。この施設は令和二年一月に竣工し、年間三〇万本の苗木生産能力があり一ヘクタール当たり二、五〇〇本植える場合、一〇〇鉢植林することができ、発芽から育苗・出荷まで一貫して行うムービングベンチ（可動式）システムや自走式灌水機の導入等、最新設備により供給体制が整っています。



カラマツのコンテナ苗を

植林しましょう

福島県南会津農林事務所 豊田 広幸



カラマツコンテナ苗

今年度は、皆伐する計画地を事前に現地確認するなど、再造林の適地を調査したいと思います。
カラマツは、生育に強い光を必要とする「陽樹」と言われ、スギよりも初期成長が早い強みを活かして下刈り回数を減らす調査・研究では、隔年下刈りではなく、植栽初期に集中して三年間行うことが望ましいようです。低コスト化の知見が揃ってききましたので、カラマツのコンテナ苗を植林していきましょう。

表紙の写真



「楽しい緑の森」

第19回ふくしま森林・林業写真コンクール 入選
 受賞者 片桐勝美さん（喜多方市）
 撮影場所：猪苗代町
 コメント：緑の森の環境の中で、笑い声がとても印象的でした。

発行人
 飯沼隆

陽光社印刷株式会社
 (定価 一〇〇円)

編集

福島県内四森林管理署
 福島県森林・林業・緑化協会
 福島県木材協同組合連合会
 福島県農林種苗農業協同組合
 ふくしま緑の森づくり公社
 森林研究整備機構福島水源林整備事務所
 福島県森林・林業・緑化協会
 (福島市中町五番一八号県林業会館内)

はなしの
 ひろば

揺れる

長椅子のある待合室で、私の傍らに座っていた少年が「わーい、電車だ！」と体を前後に揺らしながら喜んでいる。よく見ると背もたれといい電車の長椅子とよく似ている。小学校一年生くらいだろうか？「電車の中でお菓子を食べたら、お菓子の匂いでいっぱいになったよ、でも電車は、走り続けるよ」とその発想が続く。その発想に感心しながら「この電車は、どこに行くのかな？」と聞いたら「ぼくだけのいいところ」と。隣に座っていたお母さんが「この子、普通の子と違って、発達障害なんです」とにこやかに言われた。思わず（普通のレベルとは？）を考えさせられたが、普通の子が発達している部分が未発達なのだろうか、普通の子の未発達な部分が発達しているのであれば、それは障害なのだろうか？医学的にはわからないが、少年の発想には、私は（なるほど）と深く頷いた。

最近、三年ぶりに県外への出張があり、久しぶりに福島駅まで電車に乗った。長椅子に腰をおろし目をつぶると、あの少年の電車の揺れと今の揺れのリズムが一致する。また（なるほど）と感じ入る。

ふと、車窓から見える六月の緑が、昨日の雨に洗われとてもきれいだ。車窓からの眺めは一瞬だが、何十年もの時を重ねてきている風景だ。

電車の揺れを感じながら、あの少年の楽しく豊かな発想がそのままに、少年のいいところへ、社会が連れていってくれたらいいのに…とふと思う。

みんな違って、みんないい。そんな懐が広くて深い、揺るぎない社会を切望する。
 (都)

お知らせコーナー

2023一語一絵 第18回みどりの文 作品募集

～あなただけのみどりへの思い たくさん表現してください。～

「美しい緑とやすらぎの空間づくり」を目指している(一社)福島県造園建設業協会では、庭に込められたあなただけの物語を手紙や絵手紙、写真で伝える作品を募集しています。

1 部門

- (1) 手紙・エッセー部門
 規定 600字以内（句読点を含む）
 様式は自由（原稿用紙、便箋等）
 内容 新しい生活様式with green
 お庭の思い出・緑への想い 等
- (2) フォト部門
 規定 六ツ切り、ワイド六ツ切り、A4サイズ
 裏面に必ずタイトルとその思いを明記
 内容 みどりの風景・庭・街のみどり 等
- (3) 絵手紙部門
 規定 通常ハガキ、私製ハガキ（通常ハガキサイズ）
 注意 ハガキの大きさは厳守
 コピー、スキャンは不可

2 応募締切

令和5年8月28日(月)
 (当日消印有効)

3 応募先・お問い合わせ先

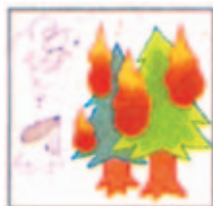
(一社)福島県造園建設業協会
 〒960-1107
 福島市上鳥渡字井戸尻11-3
 TEL 024-593-0039
 平日 8:30~17:00
 手紙・エッセー部門は、当協会のHPの専用
 応募フォームからも応募可能
 URL <https://yoiniwa.net>



(第17回最優秀賞作品)

備えのパートナー 森林保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



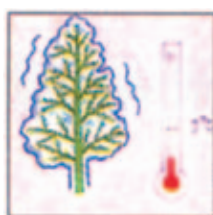
4 雪害

大量の積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《保険の対象となる森林》

竹林や人手の全く入らない天然林を除き、面積が0.01ha以上であれば、樹種、林齢に加入制限はありません。

《ご相談・お申し込みは》

◆福島県森林組合連合会
TEL024-523-0255(代)
または最寄りの森林組合

イワフジのGPシリーズ
グラップルプロセッサ

GP-35B

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

製品情報



傾斜地に対応した全旋回チルトプロセッサ

- ・最大38度のチルト機能により傾斜地での作業性が大幅に向上
- ・全旋回ローテータにより油圧ホースが絡む心配不要
- ・サイドカッタ解除機能により曲がり材に対応
- ・大容量油圧システムと強化型送りモータによるパワフルな送材
- ・GP-8コントローラを搭載
- ・新開発のスタッドローラ(オプション)

For the future with forest

イワフジ工業株式会社

<http://www.iwafuji.co.jp/>



(仙台支店) 〒981-3133 宮城県仙台市泉区中央1丁目16-6
TEL 022-347-3689 FAX 022-347-3699
(本社・工場) 岩手県奥州市水沢字桜屋敷西5-1
(支 店) 札幌・東北・仙台・関東・中部・関西・中国・九州



東北コピー販売

福島office 福島市御山一本松13番5号 TEL 024-559-0245
郡山office 郡山市富田町後久保60-1 TEL 024-961-1961

<https://t-copy.co.jp>



人と共に 緑と共に

For Professional



BCZ275GW-DC
排気量 25.4cc

ZHM1550RR



刈幅：1500mm 出力：27.5kW



SR3100



破碎径：200mm 出力：18.4kW

For Professional



GZ3950EZ
排気量 39.1cc

GZ4350EZ
排気量 43.1cc



ハスクバーナ・ゼノア(株) 福島県代理店

(有) うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108-1